

コンペ大好き！な 女性フライヤーの素顔

「ここからスタートだね」「楽しみはここから広がっている」って。本当に、その言葉通りでした。わくわくが止まらない、こんなに夢中になるのは初めてでした。

アキュラシーの楽しさを語る先輩パイロットの影響を受けて参加してみたところ、その奥の深さ、ターゲット間際の繊細なブレイク操作の難しさにどんどんはまっていきました。



内田薫さん

職業：小学校教諭 / フライト歴：10年 / コンペ歴：8年 / ホームエリア：長瀬パラグライダークラブ(ティーダパラグライダーズスクール) / 使用機体：アキュラシー…777・PAWN、アバスポーツ・クルーザーNG フリーフライト…オープン・デルタ2、SOL・エックスライト / 好きな言葉：冒険、向上心 / 嫌いなこと：噂話 / 好みの男性のタイプ：少年のような笑顔の人、ホッとさせてくれる人



2013東京国体デモアキュラシーで0cmを踏んだ瞬間! Photo: Misaki Hashimoto

「パラ、コンペを始めたきっかけは？」
家族で、山梨県八ヶ岳で体験したことがきっかけです。百合がたくさん咲いているゲレンデで、グライダーが立ち上がり身体が浮いて飛ぶ感覚がものすごく新鮮でわくわくしました。近くのスクールに入校してからは毎週末通い、まるで部活動のように練習に励み、1年でパイロットに。すると師匠や先輩たちが口々に言うんです。「ここからスタートだね」「楽しみはここから広がっている」って。本当に、その言葉通りでした。わくわくが止まらない、こんなに夢中になるのは初めてでした。

また、川地塾でタスクを組んで目的を持って飛ぶ楽しさを知ったことがきっかけで、時々J2のクロカンレースにも参加しています。

「忘れられないタスクは？」
太田区多摩川緑地でのトーンで行われた、東京国体のデモ競技アキュラシーです。都内の高層ビル群を背景にパラグライダーが飛ぶ光景は新鮮でしたが、何より忘れられないのは、その大会で0cmを踏んだこと。あまりの嬉しさに、0cmだと鳴り響く音を興奮して聞き逃してしまいました。

別の意味で忘れられないのは羽山のアキュラシー大会です。私の直前で風向きが変わり、回り込まないとランディングが見えないところからのテイクオフに変更。その結果、一生懸命回り込み過ぎて、プッシュクワンしてしまいました。目の前の尾根を越えられず、いよいよ諦め降ろすしかなくなり、ランディング場ではない、そこしかないというスペースにピンポイントで降りました。表彰式では10万点賞を頂き、嬉しいやら恥ずかしいやらでした。

「自分の飛びの持ち味と課題は？」
自然を相手に無理をしないところが、風の力に合わせながら無理せず飛べたらいいなと思っています。サーマルに煽られても、力まず、スッと力を逃がしながら回すみたいです。

課題はメンタルが弱いところ。フリーフライトでも心が折れやすく「もう降りちゃおうかな」と思ってしまう。ある先輩の「降りようと思わなければいい」という言葉になるほどと思ひ、座右の銘にしています。

「コンペをやっていて良かったこと」

「コンペの魅力って？」
アキュラシーは楽しいです。自分がターゲットになってターゲットを狙って降りていく楽しさ、繊細なコントロール、やり直しが効かないからこそ面白さがあります。

一人ひとりに平等にチャンスがあり、1ラウンドごとに自分の成績に一喜一憂し、0cmじゃないとがっかりする選手もいれば、10m内で計ってもらえたら嬉しいと思う選手もいて、それぞれに目標を持って精いっぱい臨んでいる。「自分の戦い」で、メンタルを鍛えるにはもってこいです。自分との戦いに勝った時、結果が自ずと付いてくる。大会の中ではそれぞれ

にいくつものドラマがあり、最終ラウンドでは大どんでん返しがあったりするところも面白いです。

成績が伸び悩んでも、それでも続けていきたいと思うのは、踏めそうな気がするのに踏ませてくれなかったり、奥深くて難しいかと思えば予想外に上手くいくこともあって面白いから。そして何より、あのど真ん中を踏んだ感覚をまた味わいたいからに尽きます。

上手い選手は、バッドに吸い込まれるようにランディングしていきまます。すごい先輩たちに追い付けるように、また上位に絡めるように精進していきたいです。そして再び世界選手権に出られるように頑張る、その世界で表彰台に立つことが夢です。まだまだ夢もてるなんて、なんと幸せなことだろうと思っています。

コンペ女子

第30回!



長瀬PGCの先輩フライヤーの皆さんと。